シャリンバイ　バラ科
Rhaphiolepis indica (L.) Lindl. ex Ker var. *umbellata* (Thunb.) H.Ohashi

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

湯梨浜町　2010.5／撮影：伊澤寛治

■選定理由：県内の自生地は2カ所のみ。生育状況は安定しているものの，個体数はごく少数。
■特徴：海岸の岩場に生える常緑低木。多分枝し，葉は枝先に密に互生して長さ4–8 cm。葉は長楕円形から倒卵形，浅い鋸歯がある。花期は5月，枝先に円錐花序を出し，白色の5弁花をつける。果実は球形で10–11月ころ黒褐色に熟す。和名は輪生状の葉を車輪に，白い花をウメに見立てたもの。県内では海岸沿いの旧海食崖上岩場に小さな群落がある。株数は少ない。
■分布　県内：湯梨浜町，大山町。**県外**：本州（山形県以西），四国，九州。
■保護上の留意点：自生地の岩へのつる植物の侵入防止。庭や道路，公園の植栽木との交配防止。
■文献：—

執筆者：伊澤寛治

ハマナス　バラ科
Rosa rugosa Thunb.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

大山町　2009.6.2／撮影：矢田貝繁明

■選定理由：県内が自然分布のほぼ南限で，小群落が残るのみ。国の天然記念物として保護されているが，個体群の増加は状況的に難しい。
■特徴：海岸沿いに分布し，しばしば大群落をつくる落葉低木。北海道や東北の海岸に多い。南限は太平洋側では茨城県，日本海側では島根県。枝は太く，針のような細いトゲを多生する。若枝や葉軸に細毛を密生する。葉は7–9小葉からなる。花期は5–6月。枝の先に1–3個つき，茎6–7 cmの赤い花をつける。まれに白花もある。果実は秋に赤く熟す。園芸用に改良された個体が道路などに植栽されており，管理放棄された場所では自生との区別が混乱している。
■分布　県内：鳥取市，琴浦町，大山町。**県外**：北海道，本州。
■保護上の留意点：海岸環境の保護、保全。園芸個体との交雑防止。
■特記事項：国指定天然記念物，国立・国定公園採取禁止指定種
■文献：84.

執筆者：永松　大

ヤマイバラ　バラ科
Rosa sambucina Koidz.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

伯耆町　2010.8.14／撮影：藤原文子

■選定理由：県内山間に点在するが個体数は少ない。
■特徴：山間地の明るい林縁に生育する落葉性のつる植物。明るい崖や大樹にはい上がって生育している。茎には鉤形の刺があり樹木にはい上がる，葉軸にも小刺がある。葉は互生，奇数羽状複葉。小葉は2–3対，長楕円形，長鋭突頭，細鋸歯縁，裏面粉白色。托葉は全縁で腺毛がまばら。頂小葉は大型。花期は5月下旬–6月上旬，花は白色，直径約5 cm。円錐花序で萼は反曲，花柄に腺毛あり。年による開花数変動が大きい印象がある。
■分布　県内：岩美町，倉吉市関金町，伯耆町，南部町。**県外**：本州（愛知県以西），四国，九州。
■保護上の留意点：山地の林縁部の植生保護。採取圧はないが，林道整備（道路沿いの刈り払い）時に配慮が必要。
■文献：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ミヤマニガイチゴ　バラ科
Rubus subcrataegifolius (H.Lév. et Vaniot) H.Lév.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

氷ノ山　2007.6.11／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内ではほぼ1000 m以上の高標高地に分布が限られる。分布が狭く，個体数は多くない。
■**特徴**：県内では高標高の山地尾根に生育する落葉小低木。茎や葉には小さいとげがある。葉は互生，長卵形で浅く3裂–完全3裂する。頂裂片は大きく，先は鋭く尖る。縁には重鋸歯があり，下面は粉白色。花期は5–6月，径約2 cmで白色。果実は径1 cmあまりで赤熟する。苦くなく食べられる。標高1000 m以上の草地，日当たりのよいスキー場，日当たりのよい登山道端に生育する。近縁のニガイチゴは低山に分布し，葉が卵形で全縁–3浅裂，花弁の幅がせまい。
■**分布**　**県内**：若桜町，智頭町，大山町，江府町，日南町。**県外**：本州（近畿以北）。
■**保護上の留意点**：登山道整備（刈り払い）時に注意。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

キビナワシロイチゴ　バラ科
Rubus yoshinoi Koidz.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

日南町　2008.6.4／撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内で確認されている自生地は日南町の3カ所に限られ，個体数も少ない。
■**特徴**：県内では山地の林縁に生育する落葉低木。茎は花後に伸長しつる状，刺針がまばらにある。葉は互生，羽状複葉で3小葉。頂小葉は大型，幅広，裏面白綿毛密生。花期は5–6月，淡紅色，短円錐花序。花弁は小形，長さ約5 mm。果実は球形，赤熟する。和名は発見地の吉備地方にちなみ，花がナワシロイチゴに似ることによる。近年個体数の変化はないが，草本類の繁茂による被圧のせいか，2010年は結実個体が見られなかった。
■**分布**　**県内**：日南町。**県外**：本州（福島県以南），中国地方，九州。
■**保護上の留意点**：林縁部の自然植生の保護管理。草刈り時に注意が必要。
■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ナガボノワレモコウ　バラ科
Sanguisorba tenuifolia Fisch. ex Link

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

大山町　2009.10.30／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：全国的には高地の草原に多いが，県内では海岸に自生する。草刈り管理により維持されており，絶滅の危険性が高い。
■**特徴**：やや湿った草地に生える多年生草本。秋に山地や海岸の草地に咲くワレモコウに似ているが，花穂が長く，花弁が白色，雄しべが花弁より長く突き出ている点で異なる。ナガボノワレモコウには4変種が認められていたが，分類学的な再検討が必要なため，ここではナガボノワレモコウとして記載。花期は8–10月。県内の自生地は水田土手で，草刈り管理されている。管理がなくなるとセイタカアワダチソウなどの繁殖が考えられる。本種の維持には草刈り管理による背の低い草地の維持が重要。
■**分布**　**県内**：大山町。**県外**：北海道，本州，四国，九州。
■**保護上の留意点**：水田耕作継続と土手の保全管理および草刈期の配慮。
■**文献**：60.

執筆者：坂田成孝

イワガサ　バラ科
Spiraea blumei G.Don

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

三徳山　2010.5.21／撮影：永松　大

■**選定理由**：県内では山地岩場に生育し，極めてまれ。個体群は孤立しており，雪崩や崩壊などの自然かく乱により，絶滅が心配される。
■**特徴**：山地や海岸の岩場に生育する落葉小高木。枝を叢生し高さ50 cmほど。葉身は長さ2 cmのひし形状卵形で先端はまるく，基部は広いくさび形。花期は5月。枝先に直径7 mmほどの白色5弁花を30個ばかり傘状に集めて咲く。自生地では岩場内で比較的安定した条件の良い場所に少数個体が生育するのみで，群落は小さい。地元ではタンゴイワガサとも呼ばれてきた。和名は岩に咲く白い傘の意。
■**分布**　**県内**：若桜町，三朝町。**県外**：本州（近畿以西），四国，九州。
■**保護上の留意点**：地域住民の保護意識高揚による盗掘防止。自生地岩場の保全。
■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種
■**文献**：54.

執筆者：森本満喜夫

コゴメウツギ　バラ科
Stephanandra incisa (Thunb.) Zabel

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

日南町　2009.5.29／撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での自生地は西部に限定され，東部ではごくまれ。個体は孤立しているうえ採取圧もある。
■**特徴**：山地の林縁や草地に生育する小形の落葉低木。枝は折れやすく多分枝で高さ30–70 cm。葉は互生，卵形，羽状欠刻で，長さ2–4 cm，幅1–3 cm。葉の形は変異が多く，浅裂または中裂する。裏面の脈上と葉柄に軟毛がある。葉柄は長さ3–7 mm，托葉は長さ5 mmの披針形。花期は5月，総状花序を出し，白色で径4 mmほどの花をつける。花弁は5個だが，萼片も花弁のように見える，花弁や萼片は白いが，萼筒の内側が黄色いので，遠くからは花は黄白色に見える。雄しべは10個，花弁より短く，内側に曲がる。果実は袋果，長さ2–3mmの球形。9–10月に熟す。和名は小さい白花を小米（米粒のくだけたもの）に例えたもの。
■**分布**　**県内**：智頭町，大山町，伯耆町，日南町。**県外**：本州，四国，九州。
■**保護上の留意点**：山地森林の保護，保全。
■**文献**：13.

執筆者：藤原文子（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

コキンバイ　バラ科
Waldsteinia ternata (Stephan) Fritsch

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
環境省：—

氷ノ山　2008.5.30／撮影：永松　大

■**選定理由**：県内での自生地は氷ノ山の尾根部分のみ。急斜面の登山道沿いに生育していて，登山者による踏圧が強く，絶滅が懸念される。
■**特徴**：ブナ帯域のやや乾性地林縁に生育する小型の多年生草本。細い地下茎を長くひく。葉は根生で長柄がある。3出複葉でやや毛がある。小葉はさらに浅く3裂し，鋸歯がある。花期4–5月。花柄の先に径2 cmほどの黄色い1–3花をつける。氷ノ山ではブナ帯の尾根登山道脇から林内に自生する。急斜面で登山道が洗掘される場所で，登山者による道脇のコキンバイ踏みつけが多かったが，進入禁止ロープの設置とチシマザサの一部刈り払い活動により個体群の状況が改善しつつある。
■**分布**　**県内**：若桜町。**県外**：北海道，本州（中部以北）。北東アジア。
■**保護上の留意点**：登山道整備による踏みつけ防止。チシマザサの管理。
■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種
■**文献**：—

執筆者：永松　大

フジキ　マメ科
Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

鳥取市河原町　2010.10.3／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部の限られた地域に孤立的に生育するのみ。谷間の自然林伐採にともない，減少傾向である。
■**特徴**：山地森林，特に渓谷上の急斜面に生育する落葉高木。葉は奇数羽状複葉。小葉は卵状長楕円形で，4–6対が互生する。小葉の基部には刺状の小托葉がある。側脈は8–13対，表面脈上に白い軟毛があり，裏面は淡緑色で毛がある。花期は6–7月。枝先に円錐状の花序を出し，白い蝶形の花を多数つける。果実は広い線形で縁に翼があり，種子は1–3個。県内では稀産。日本海側での分布は若狭湾までとされる。よく似たユクノキは葉の裏面が粉白色で細脈が網目状。果実が線形で縁に翼がなく，種子は3–9個。
■**分布**　**県内**：鳥取市河原町，八頭町，若桜町。**県外**：本州（福島県以南），四国，九州。
■**保護上の留意点**：山地谷間の自然林保護。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

タヌキマメ　マメ科
Crotalaria sessiliflora L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
環境省：—

米子市　1999.9.5／撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内では生育地はわずかで孤立し，希少性が高い。草原，土手等の管理放棄，ほ場整備による生育適地の減少，盗掘等で減少が著しい。
■**特徴**：日当たりのよい平地の草原や土手などに生育する1年生草本。古い時代の帰化植物とされる。茎は直立し，高さ20–60 cm。全体に褐色伏毛が密生。葉は互生し，広線形か披針形で長さ4–10 cm。茎の先端に総状花序をつけ，7–10月に2–20個の青紫色の蝶形花を密に咲かせる。萼は大形で2深裂，上片は2再裂，下片は3再裂して豆果を包む。米子市では棚田の土手に自生，耕作者の高齢化による管理放棄が心配される。伯耆町では農道道端に自生，チガヤ等が繁茂しており定期的な草刈りが必要。
■**分布**　**県内**：米子市，伯耆町。**県外**：本州（東北南部以南），四国，九州。朝鮮，中国，東南アジア。
■**保護上の留意点**：草地の保全管理。保護意識向上による採取防止。
■**文献**：7.

執筆者：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

イタチササゲ　マメ科
Lathyrus davidii Hance

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
環境省：—

米子市淀江町　2009.7.13／撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：分布地は米子市の1カ所のみで個体数はごく少数。自生地は道ばたで維持管理にともなう刈り払いがあり，絶滅の危険性が高い。
■**特徴**：山地の草原，林縁などに生育する多年生草本。茎は高さ約1 m，ほぼ無毛。葉は互生し，偶数羽状複葉で小葉は4–8枚ほど。楕円形から卵形で裏面は白緑色。花期は7–8月。総状花序に10–30個の花がつき最初は黄色，のち褐色に変化する。豆果は偏平な線形で長さ約10 cmにもなる。ササゲの豆果に似る。自生地は生活道路斜面で林縁の明るい場所。林縁としての維持管理は必要であるが，イタチササゲ自身を草刈りされると生育に影響が大きい。
■**分布**　**県内**：米子市淀江町。**県外**：本州，九州。
■**保護上の留意点**：道路維持作業による草刈り，除草剤散布に注意。
■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

イヌハギ　マメ科
Lespedeza tomentosa (Thunb.) Siebold ex Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：準絶滅危惧（NT）

米子市　2010.9.18／撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：太平洋側に分布の中心がある種で，県内では西部の1カ所にのみ自生確認。個体数少なく個体群は不安定。
■**特徴**：日あたりのよい河川敷や砂地に生育する多年生草本。下部は木化し，高さ50–100 cm。茎に黄褐色軟毛が密生。葉は互生，3出複葉。小葉は長さ5 cm。花期は9月上-中旬。葉腋から花茎を出し，長い総状花序に多数の小花をつける。花は淡黄褐色，花冠内側に赤紫色斑点がある。結実は主に閉鎖花で，開放花では結実悪い。日野川の自生地では上下2段の堤防法面と管理道路に群生。本種保護のため草刈りをやめた上段部分では株数が増加したが，草刈りを再開した下段では減少した。
■**分布**　**県内**：米子市。**県外**：本州，四国，九州，沖縄。朝鮮，中国，インド，ヒマラヤ。
■**保護上の留意点**：自生地のモニタリングと植生管理の改善。
■**文献**：—

執筆者：浜田幸夫（鳥取県西部希少野生植物保全調査研究会）

ツルフジバカマ　マメ科
Vicia amoena Fisch. ex Ser.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

伯耆町　2010.9.19／撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では自生地1カ所のみ，個体数は10年前より増加はしたが，いまだ少数。耕作放棄されたため，ススキ等に脅かされている。
■**特徴**：山野に生育するつる性の多年生草本。地下茎横走。茎は稜があり四角柱状，長さ80–180 cm，全体に軟毛があるが，毛の多さには変異がある。葉は羽状複葉，長さ8–15 cm，小葉は5–8対，やや厚く長さ約2 cm。長楕円形で下面に軟毛，巻きひげは分枝。葉は乾燥すると暗褐色になるのが特徴である。花期は8–10月，紅紫色，萼歯は細尖。花の旗弁の舷部と爪部は同長。托葉は粗く裂ける。美しい花色をフジバカマに見立てたもの。クサフジは小葉が9–12対と多い。自生地は耕作放棄されススキ等の草本類が繁茂したため、個体群は草刈りされる用水路に沿って移動している。
■**分布**　**県内**：伯耆町。**県外**：北海道，本州，四国，九州，沖縄。
■**保護上の留意点**：土地所有者の協力のもと，初夏に草刈等の管理が必要。
■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ヒョウノセンカタバミ　カタバミ科
Oxalis acetosella L. var. *longicapsula* Terao

鳥取県：その他の重要種（OT）
環境省：—

氷ノ山　2005.5.27／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：氷ノ山山域の高標高域に分布し，代表的な産地とされている。
■**特徴**：県内氷ノ山山域のブナ帯落葉樹林下に群生する小型の夏緑性多年生草本。葉は根出し，長い葉柄の先に3複葉をつける。小葉は倒心形，角はまるく幅約4 cm。花期は6–7月，白色で径約2 cm。コミヤマカタバミの変種とされ，全体に大きい。蒴果の形が異なり長楕円形,長さ15 mmほどになる。県内では扇ノ山，氷ノ山の標高1000 m以上の場所で確認されている。県内の低山から山地まで多産するミヤマカタバミとの区別が難しいが，ヒョウノセンカタバミとされているのはごく少数のみ。
■**分布**　**県内**：扇ノ山，氷ノ山。**県外**：北海道，本州（日本海側）。
■**保護上の留意点**：ブナ帯森林の保護，保全。
■**文献**：92.

執筆者：永松　大

イヨフウロ（シコクフウロ）　フウロソウ科
Geranium shikokianum Matsum.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

大山　2010.7.5／撮影：松田万由美

■**選定理由**：主に大山上部の草地に生育し，お花畑の大切な構成種となっている。大山では比較的安定しているが，他の山地ではまれ。
■**特徴**：ブナ帯上部の草原に生育する多年生草本。茎は30–50 cmになるが基部は倒伏しがちで，斜上することが多い。茎には開出またはやや下向きの毛がある。葉は対生で，下部の葉には毛の密生した長柄がある。葉身は長さ4–10 cm，掌状中裂から5裂。裂片はひし形状，数個の大きな鋸歯がある。表面には短い伏毛,裏面は葉脈上に長い開出毛が生えている。托葉は褐色で合生する。花期は7–9月。花は紅紫色で径2.5–3 cm，倒卵形の5枚の花弁からなる。萼片も5枚。花柄は長く，小花柄ともに開出毛がある。蒴果は細長い柱状。今日の安定は大山山頂部の植生回復努力の成果。
■**分布**　**県内**：大山町，伯耆町，日南町。**県外**：本州（関東以西），四国，九州。
■**保護上の留意点**：採取防止。ブナ帯域上部の草原の保全。
■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
■**文献**：—

執筆者：松田万由美

トウダイグサ　トウダイグサ科
Euphorbia helioscopia L.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

大山町　2010.3.29／撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では大山町と琴浦町の海岸沿いのみで確認されている。自生場所の移動もあり，個体群は安定しない。
■**特徴**：日当たりのよい畑や路傍，堤防などに生育する越年生草本。県内では海岸近くの田畑，休耕田，路傍に生育する。茎は20–40 cm，叢生し傷つけると有毒の乳液を分泌。葉は互生し，長さ1–3 cmのへら型–倒卵形。茎の先にはやや大型の葉を5個輪生，細鋸歯縁。花期は4–5月，黄緑色，各枝先には2–3個小さな杯状花序がつく。腺体は楕円形。子房は平滑。和名は油を入れた皿を置く燈台に模したもの。休耕田や空き地に自生するが，年々生育場所が移動している。ここ2–3年は緩やかに減少している。
■**分布**　**県内**：琴浦町，大山町。**県外**：本州，四国，九州，沖縄。
■**保護上の留意点**：自生地の草地保全管理。田植え前の草刈り時配慮など農家の方に希少性を周知する必要性がある。
■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

ナツトウダイ　トウダイグサ科
Euphorbia sieboldiana C.Morren et Decne.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

日南町　2008.5.16／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では自生地は多いが個体数は少ない。樹木や大型草本などが繁茂した場所では消失する。
■**特徴**：丘陵地からブナ帯の自然林下や林縁，草地にはえる多年生草本。根茎は横走し，高さ40 cm内外，紫紅色を帯びることが多い。茎葉は互生し，狭長楕円形，全縁，鈍頭，茎頂に5枚輪生する。総苞葉は3角形で鈍頭。ナツという名前だが，花期は4–5月，杯状花序。腺体は三日月形で暗赤紫色，縁に角状の突起がある。琴浦町の海岸近くに生育するトウダイグサとは腺体が楕円形で全縁であることで区別する。
■**分布**　**県内**：鳥取市用瀬町・佐治町・鹿野町，若桜町，智頭町，三朝町，日野町，日南町。**県外**：北海道，本州，四国，九州。
■**保護上の留意点**：自然林と谷間の草地保護。草地のものは刈り払い時に注意。
■**文献**：—

執筆者：坂田成孝

ヒトツバハギ　トウダイグサ科
Flueggea suffruticosa (Pall.) Baill.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
環境省：—

江府町　2009.6.11／撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が限られており，生育本数もわずか。草刈りの影響などで生育個体も小さく，絶滅のおそれがある。
■**特徴**：低山域に生育する落葉低木。高さは1–3 m，幹は細かく細分枝，冬期には枯れる。雌雄異株。葉は互生し長楕円形。花期は6–7月。雄花は3 mmほどの柄を持ち，葉柄から多数束生する。雌花は長さ10 mmほどの柄があり，葉腋に1–5個がつく。花は淡黄緑色。蒴果は扁球形で径4–5 mm，熟すと3裂し，種子が散布される。県内での自生地は道端で，道路維持にともなう草刈りによって個体群が縮小してきている。
■**分布**　**県内**：江府町。**県外**：本州（関東・中部以西），四国，九州。
■**保護上の留意点**：生育地の環境変化と人為的な刈り払いに注意が必要。
■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

コクサギ　ミカン科
Orixa japonica Thunb.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

智頭町　2010.4.21／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部，西部の低山地に自生する。沢沿いの湿り気の多い岩場の自然林に生育するが，生育に適した場所が減少してきた。
■**特徴**：低地二次林に生育する落葉小低木。全体に臭気がある。雌雄異株。葉はふつう2枚ずつ互生する独特の葉序。倒卵形で先は短く尖る。縁は全縁または低い鋸歯がある。花期は4–5月，色は黄緑色。果実は3–4個の分果で，7–10月に熟す。卵形–球形の黒色の種子がある。県内では沢沿いで湿り気の多い水がにじみ出る岩場的なところに多い。
■**分布**　**県内**：岩美町，鳥取市福部町・河原町，八頭町，智頭町，伯耆町，日野町。**県外**：本州，四国，九州。朝鮮南部，中国。
■**保護上の留意点**：低山沢沿い自然林の保全。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

フユザンショウ　ミカン科
Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

鳥取市河原町　2005.9.29／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では低山の日当たりのよい崖地などに自生するが，分布場所が少なく個体数も多くない。
■**特徴**：常緑樹林内に生える常緑低木。雌雄異株。高さ1–3 m。茎にトゲやいぼ状の突起が対生状につく。葉は互生，奇数羽状複葉，葉軸に翼がある。小葉は1–3対，質は厚い。花期は4–5月，淡黄色。果実は径5 mmほどの分果，8月に熟す。種子は5 mmほどの球形で黒色。県内では低地の日当たりがよい崖地林縁に落葉広葉樹と混生することが多い。
■**分布**　**県内**：鳥取市河原町，八頭町，三朝町，米子市，伯耆町，南部町。**県外**：本州（関東以西），四国，九州。
■**保護上の留意点**：自生個体の過度の被陰に注意。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

ヒナノカンザシ　ヒメハギ科
Salomonia ciliata (L.) DC.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）
環境省：—

岡山県備前市／撮影：太田　謙

■**選定理由**：過去には県内西部の3カ所の湿地で自生が確認されていたが，その後消失し，2010年に確認された自生地はない。
■**特徴**：日あたりのよい湿地に生育する1年生草本。茎葉細く直立，ときに上部で分枝し，高さ30 cmほどになる。葉は互生し，長さ3–8 mm，上部ではもう少し大きくなるが，柄はほとんどなく目立たない。花期は8–9月，やはり目立たない淡紫色の花をつける。花は長さ約2 mmと小さく，細長い穂状花序になる。もともと個体数は多くない種であるが，県内では自生地の改変もあり，確認できなくなっている。
■**分布**　**県内**：確実な自生地なし。**県外**：本州，四国，九州。
■**保護上の留意点**：日あたりのよい泥質な湿地の保全。調査努力の継続。
■**文献**：—

執筆者：永松　大

アサノハカエデ　カエデ科
Acer argutum Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

氷ノ山　2005.5.27／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部のブナ帯渓谷沿いと大山の一部にのみ生育する。渓谷沿い自然林の減少にともない本種も希少化している
■**特徴**：低山の林縁に生育する落葉小高木。雌雄異株。葉は柔らかく，掌状に浅く5–7裂する。裂片の先は尾状に尖り，縁には重鋸歯がある。表面の葉脈が深く凹入するためしわがあるように見えるのが特徴。花期は5–6月，淡黄色。雄花序は10ほどが束状に垂れ下がる。雌花序は散房状，こちらも10花ほどが垂れ下がる。翼果は水平に開く。アサの葉というよりトウゴマの葉に似ている。生育はブナ帯渓谷沿いが多く，崖地的で湿潤な場所が中心。
■**分布**　**県内**：若桜町，智頭町，大山町。**県外**：本州（関東以西–中国地方東部），四国。
■**保護上の留意点**：ブナ帯渓谷自然林の保全。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

メグスリノキ　カエデ科
Acer maximowiczianum Miq.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

若桜町　2002.5.29／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では，標高500 m前後の山地渓谷4地域で確認されるのみで，個体数も少ない。
■**特徴**：山地に生育する落葉高木。雌雄異株。若枝や葉柄に灰白色の長毛が密生する。葉は3出複葉。小葉は長楕円形で先に低い鋸歯がある。花期は5月。若葉の展開と同時に咲く。雄花は3–5個，雌花は1–3個が頂生する。色は淡黄色。果期は8–9月。葉は鮮やかに紅葉する。斜面の広葉樹林内に孤立的に生育する。樹皮を煎じたものが目薬になるという民間療法があり，有用樹種として採取されることがある。
■**分布**　**県内**：若桜町，三朝町，琴浦町，日南町。**県外**：本州（宮城県，山形県以南），四国，九州。北陸・近畿以西には少ないとされる。
■**保護上の留意点**：山地渓谷の自然植生保全。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

ヒナウチワカエデ　カエデ科
Acer tenuifolium (Koidz.) Koidz.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

那岐山　2007.6.20／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内東部のごく限られた場所に生育するのみ。ブナ自然林の減少にともない，本種も希少化してきた。
■**特徴**：山地の林内に生育する落葉小高木。高さ5 m内外。雌雄同株。葉は小形で径4–8 cm。葉身は無毛で7–9個の裂片にやや深く裂け，裂け目の奥に隙間がある。基部は心形。花期は5月，雄花と両生花を両方つける。帯紅淡黄色，径5 mmほどの花が散房状に咲く。翼果は平開する。山地渓谷沿いの湿潤な斜面，岩場，崖地。
■**分布**　**県内**：若桜町，智頭町。**県外**：本州（福島県以南），四国，九州。
■**保護上の留意点**：山地渓谷自然林の保全。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

ミヤマウメモドキ　モチノキ科
Ilex nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
環境省：—

日野町　2010.6.29(雄花)／撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地は西部の湿地に限定されているが，環境変化により生育適地が減少している。
■**特徴**：山地の湿原に生育する落葉小高木。高さは2–4 m。雌雄異株。葉は短枝に密につき，倒披針形で互生して，ウメモドキより細長い。6月末ごろ，白い花を咲かせる。花柄がウメモドキより長く3–7 mmほど。雄花序は4–6花，雌花序は2–4花をつけ，径4 mmほど。果実は球形で秋に赤く熟す。県内での自生地は日野郡内の湿った原野で，ハンノキ，ハイイヌツゲ，ノリウツギなどと混生している。
■**分布**　**県内**：日野町，日南町。**県外**：本州（東北地方から中国地方）の日本海側。
■**保護上の留意点**：生育環境の変化防止。湿地の保護と採取防止。
■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

クロヅル　ニシキギ科
Tripterygium regelii Sprague et Takeda

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

氷ノ山　2004.7.21／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部のブナ帯上部および西部の一部にのみ自生する。
■**特徴**：山地の林縁や林内に生育する落葉性つる植物。若枝は黄褐色か赤紫色で別名のベニヅルの方がよく似合う。葉は互生し，卵形–楕円形で長さ5–15 cmと大形。縁は浅い鋸歯状で両面とも無毛。花期は6–7月，円錐花序で，径6 mmほどの白色の小花を多数つける。花柄には微細な突起毛がある。果実は翼果，翼は3個で色は淡緑色，紅色を帯びることもある。山地の稜線，尾根の日当たりがよい岩場，林縁，林道端，登山道の脇などに生育する。
■**分布**　**県内**：若桜町，智頭町，江府町。**県外**：本州（日本海側），四国，九州。朝鮮，中国。
■**保護上の留意点**：ブナ帯における日のあたる林縁の維持。
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘

ヨコグラノキ　クロウメモドキ科
Berchemiella berchemiifolia (Makino) Nakai

鳥取県：絶滅危惧II類（VU）
環境省：—

江府町　2009.6.29／撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では西部の渓流沿い崖地とその周辺に限られており，生育本数も少ない。初版時から減少がみられないのでVUに変更した。
■**特徴**：山地の渓谷や崖に孤立的に生育する落葉中高木。樹皮は細かい縦の割れ目が顕著。葉は互生，長楕円形，上面は光沢，下面は帯粉白色，全縁，長さ約10 cm。花期は6月。花序は小さな集散花序で，先端近くの枝の葉腋にでる。穂はやや起き上がる。花は径3 mmほどで黄色。もともと個体数は多くない種とも考えられる。
■**分布**　**県内**：三朝町，江府町，日野町，日南町。**県外**：本州（宮城県，新潟県以西），四国，九州。
■**保護上の留意点**：山地渓谷沿いの自然林保護。
■**文献**：—

執筆者：矢田貝繁明

カラスノゴマ　シナノキ科
Corchoropsis tomentosa (Thunb.) Makino

鳥取県：準絶滅危惧（NT）
環境省：—

大山町　2010.9.26／撮影：藤原文子

■**選定理由**：かつては畦畔にふつうであったようだが，明らかに減少した。現在確実な自生地は西部に1カ所のみ，個体数も少ない。
■**特徴**：畑や道ばたに生育する1年生草本。茎は直立し，分枝して高さ30–90 cm。茎はやや硬く上部には星状毛がある。葉は互生し卵形。6–20 mmの葉柄があり葉身は長さ2–7 cm，両面に星状毛がある。花期は8–9月，花は葉腋に1個ずつつく。花弁は5枚で黄色，径約18 mm。仮雄ずいは5，10–15個ある雄しべより長く突き出す。萼片は線状披針形で反りかえる。果実は線形，長さ25–35 mmで3片に裂開する。種子は卵形。
■**分布**　**県内**：大山町。10年前は日南町でも確認，2010年は見られず。**県外**：本州，四国，九州。
■**保護上の留意点**：現在は草刈りにより草地が維持されている。継続的な草地の維持が必要。
■**文献**：—

執筆者：藤原文子（鳥取県西部野生希少植物保全調査研究会）

コショウノキ　ジンチョウゲ科
Daphne kiusiana Miq.

鳥取県：絶滅危惧II類（VU）
環境省：—

鳥取市福部町　2006.4.7／撮影：坂田成孝

■**選定理由**：太平洋側に多い種で県内では少なく，3カ所でのみ自生確認。うち1カ所では衰退ぎみ。
■**特徴**：暖地の林内に生育する常緑小低木。高さ1 m以下。雌雄異株。葉は互生し長さ5–15 cmほど，長楕円形から倒披針形で全縁。花期は4月。枝先に数個集まってつき芳香があって，白色4弁の筒状花，長さ10 mmほど。果実は球形で6月に赤く熟す。果実はかむとじわじわと辛みが増して最終的にはしびれるように辛いという，有毒。県内では低山帯の常緑広葉樹林内や林縁に生育する。
■**分布**　**県内**：鳥取市福部町，倉吉市，北栄町。**県外**：本州（関東以西の太平洋側），四国，九州。
■**保護上の留意点**：低山帯の森林保全。林内多様性の維持。
■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種
■**文献**：—

執筆者：西尾幸弘